

様式1

平成31年度 山口県立防府商工高等学校（定時制） 学校評価書 校長（小土井 実）

<b>1 学校教育目標</b>
教育目標：豊かな校風を継承し、自ら学ぶ意欲と時代の変化に主体的に対応できる能力を備え、健康で社会や文化の発展に貢献できる産業人を育成する。 教育方針：①広い視野と健康で豊かな人間性の育成 ②個性と創造性の伸長 ③社会人としての資質の涵養 ④望ましい勤労観と職業観の形成 校訓：スクールモットー「信」「創」「翔」

<b>2 現状分析（前年度の評価と課題を踏まえて）</b>
○ 地域の関係機関や住民等との連携を深め、コミュニティ・スクールの仕組みを活用した地域貢献・学校支援の在り方を充実する必要がある。 ○ 落ち着いた学習環境が維持されているが、基礎学力の定着・向上に向けて更に組織的・計画的な「学び直し」の取組の工夫・改善が求められる。 ○ 様々な課題を抱えた生徒の自己肯定感・自己有用感を醸成するため体験的・協働的な学習活動を取り入れ、「自立への支援」を充実することが求められる。

<b>3 本年度重点を置いて目指す成果・特色、取り組むべき課題</b>	
「学び直しと自立への支援」 1 地域とともにある学校づくりといきいき環境づくり ・コミュニティ・スクールの仕組みを活かした地域連携教育の推進 ・スクールカウンセラーや養護教諭と連携した教育相談の推進 2 将来への道づくり ・生徒一人ひとりの自立をめざす教育活動の充実 ・社会性と公共心の育成（あいさつ、言葉遣い、身だしなみ、清掃活動等） 3 輝く人づくり ・学び直しによる基礎学力の定着と学ぶ意欲の育成 ・体験的・協働的な学びを通じた自己肯定感・自己有用感の醸成	本年度のチャレンジ目標 follow your dreams ～ 夢を叶えるためにがんばろう ～ ○ 無断欠席・無断遅刻ゼロ ○ 各種資格取得にチャレンジ ○ 就職・進学 希望進路100%達成 ○ 自ら考え、判断し、行動する高校生

4 自己評価				5 学校関係者評価			
評価領域	重点目標	具体的方策（教育活動）	評価基準	達成度	重点目標の達成状況の診断・分析	学校関係者からの意見・要望等	評価
地域連携	持続可能な地域連携教育の推進	地域連携や高大連携等を活用した学校行事の開催や地域のボランティア活動等の体験学習を通じて、地域貢献や学校支援に資する活動を実施する。	4: 学校評価アンケートで、地域に貢献していると感じる生徒が90%以上になった。 3: 学校評価アンケートで、地域に貢献していると感じる生徒が80%以上になった。 2: 学校評価アンケートで、地域に貢献していると感じる生徒が70%以上になった。 1: 学校評価アンケートで、地域に貢献していると感じる生徒は70%未満に留まった。	4	学校評価アンケートで、「地域の環境美化・環境保全に自覚を持って取り組んでいる」という設問に対する肯定的評価（「そう思う」「だいたいそう思う」）の割合は96.0%であった。昨年度より0.2ポイント減少したが、地域清掃ボランティア活動等を通じて、多くの生徒が地域貢献を実感できている。	時間的な制約がある中で地域清掃ボランティア活動に取り組むなど、地域密着型の特色ある教育活動が行われている。また、定時制教育振興会による学校支援が効果的に行われている。	A
	基礎学力の定着	漢字テストを計画的・組織的に実施するなど各教科・科目で義務教育段階での既習内容の確認を徹底するとともに、各種検定や資格取得に取り組ませることで学習意欲の向上を図る。	4: 授業アンケートで「授業の内容が理解できる」と回答した生徒が90%以上であった。 3: 授業アンケートで「授業の内容が理解できる」と回答した生徒が80%以上であった。 2: 授業アンケートで「授業の内容が理解できる」と回答した生徒が70%以上であった。 1: 授業アンケートで「授業の内容が理解できる」と回答した生徒は70%未満であった。	4	授業アンケートで、「授業の内容が理解できる」という設問に対する肯定的評価（「そう思う」「だいたいそう思う」）の割合は95.5%で、昨年度より8.2ポイント上昇した。どの授業も落ち着いた雰囲気を実施されており、生徒は意欲的に学習に取り組んでいる。今後とも生徒一人ひとりの学力の実態把握に努め、生徒の「つまずき」や「困り感」に寄り添った学習支援を充実させる。	小中学校で何らかの「つまずき」のある生徒が多い中、少人数という特色を活かし、「学び直し」に向けてきめ細かな学習支援を行ってほしい。	A
教務	授業力の向上	授業中の私語や居眠り、スマホいじりを防止するなど授業規律の向上に取り組む一方、教材の精選や教授法の工夫・改善を通じて「わかる喜び」「できる楽しさ」を実感できる授業づくりに努める。	4: 授業アンケートで、教員の授業に対する生徒の満足度が90%以上であった。 3: 授業アンケートで、教員の授業に対する生徒の満足度が80%以上であった。 2: 授業アンケートで、教員の授業に対する生徒の満足度が70%以上であった。 1: 授業アンケートで、教員の授業に対する生徒の満足度は70%未満であった。	4	授業アンケートで、「先生は十分に準備をして授業に臨んでいる」など教員の授業に関する設問6項目に対する肯定的評価（「そう思う」「だいたいそう思う」）は96.6%で、昨年度より7.1ポイント上昇した。教員の授業改善の取組と生徒の学習意欲の向上の相乗効果により、よりよい学習環境の形成に結びついている。	多様な生徒がいる中、落ち着いた学習環境が維持できている。生徒の学習ニーズに沿いながら、「わかる喜び」や「できる楽しさ」を実感できる授業づくりに努めてほしい。	A
	いじめを許さない学校づくり	よりよい人間関係の形成を通じていじめの未然防止に努めるとともに、各種アンケート調査や個人面談等を計画的・定期的実施していじめの早期発見・早期対応に取り組む。	4: 学校が認知したいじめについて、解消率が100%であった。 3: 学校が認知したいじめについて、解消率が80%以上であった。 2: 学校が認知したいじめについて、解消率が60%以上であった。 1: 学校が認知したいじめについて、解消率が60%未満であった。	2	コミュニケーション能力が十分に身に付いておらず、他者と人間関係を構築するスキルが低い生徒が多いため、ほんの些細なことから感情的なもつれや生徒間のトラブルが生じることが多い。深刻ないじめに発展したケースはなかったが、「いついじめが起きてもおかしくない」との認識を教員間で共有し、組織的で迅速な対応に努める。	将来、職場や家庭で円満な人間関係を築いていくためにも、生徒の対人スキルを高める取組を期待する。いじめについては、少人数のよさを活かしながら、日頃からのきめ細かな取組を期待する。	B
生徒指導	基本的生活習慣の確立	正門指導等を組織的・計画的に実施することにより、挨拶や時間厳守など社会人基礎力を育成する。	4: 基本的生活習慣に関する指導を評価した生徒が90%以上であった。 3: 基本的生活習慣に関する指導を評価した生徒が80%以上であった。 2: 基本的生活習慣に関する指導を評価した生徒が70%以上であった。 1: 基本的生活習慣に関する指導を評価した生徒が70%未満であった。	4	学校評価アンケートで、本校は「挨拶や時間を守るなど礼法や基本的生活習慣に関する指導に力を入れている」という設問に対する肯定的評価（「そう思う」「だいたいそう思う」）の割合は96.0%で、昨年度より8.8ポイント上昇した。ほぼ全員の生徒が登校時にきちんと挨拶できる状況であり、TPOに応じた振る舞いができるようになってきた。	きちんと挨拶ができることや時間を守ることは、どこの職場においても基本である。その場面にふさわしい振る舞いや服装も含め、基本的生活習慣の確立に向けた指導を継続してほしい。	A
	【就職】 就職希望者全員が正規雇用で就職	本人の希望に沿った求人情報を提供するとともに、新たな求人開拓に努める。	4: 全員が正規雇用で就職できた。 3: 正規雇用の就職者が80%以上だった。 2: 正規雇用の就職者が60%以上だった。 1: 正規雇用の就職者は60%未満だった。	4	就職希望者2名全員が正規雇用での内定を得ることができた。仕事の内容や職場の人間関係に不安を抱く生徒に対しては、各社からの求人情報を粘り強く紹介することに努めた。	生徒の社会的自立に向け、今後も正規雇用での就職をめざしてほしい。	A
進路指導	【進学】 進学希望者全員が希望大学等に進学	きめ細かに進学情報を提供するとともに、個別指導による受験対策を徹底する。	4: 全員が志望校に進学できた。 3: 志望校への進学者が80%以上だった。 2: 志望校への進学者が60%以上だった。 1: 志望校への進学者は60%未満だった。	4	進学希望者3名全員が志望校に合格することができた。3名とも、経済的に困難な家庭の生徒であるが、各種奨学金制度等を活用して進学できることとなった。	経済的に困難な家庭の生徒も進学できるよう、手厚い支援を充実してほしい。	A
	学校の組織等	今後の教員の転退職等に伴う各分掌業務の引継に備えるため、日常的なOJTを活発化するとともに、常日頃から情報交換を緊密に行って教員間の共通理解を図り、業務を円滑に遂行する。	4: 「業務がスムーズに遂行されている」と回答した教員が90%以上であった。 3: 「業務がスムーズに遂行されている」と回答した教員が80%以上であった。 2: 「業務がスムーズに遂行されている」と回答した教員が70%以上であった。 1: 「業務がスムーズに遂行されている」と回答した教員は70%未満であった。	4	学校評価アンケートで、「各分掌ごとの情報交換により、業務がスムーズに遂行されている」という設問に対する肯定的評価（「そう思う」「だいたいそう思う」）の割合は90.0%であった。しかし、昨年度の100%から10ポイントの減少となった。今後も教員の転退職が続くことから、業務の円滑化に向けたOJTが活発に行われる職場環境の維持に努める。	小規模校のよさを活かし、先生たちの間できめ細かな情報交換を行って、更に円滑な学校運営に努めてほしい。	A
業務改善	日常的な業務 会議開催の工夫	午後4時以降の会議開催を避けるなどの業務改善を推進し、教員がゆとりを持って生徒に向き合える時間を確保する。	4: 「生徒とゆとりを持って向き合えた」と回答した教員が90%以上であった。 3: 「生徒とゆとりを持って向き合えた」と回答した教員が80%以上であった。 2: 「生徒とゆとりを持って向き合えた」と回答した教員が70%以上であった。 1: 「生徒とゆとりを持って向き合えた」と回答した教員が70%未満であった。	4	学校評価アンケートで、「生徒とゆとりを持って向き合えている」という設問に対する肯定的評価（「そう思う」「だいたいそう思う」）の割合は90.0%であった。しかし、昨年度の100%から10ポイントの減少となった。今後も業務改善の取組を進め、教員が生徒とゆとりを持って向き合える時間を確保する。	先生たちがゆとりを持って生徒に向き合える環境が維持されている様子がうかがえる。今後も生徒一人ひとりとじっくりと向き合い、自立に向けた支援を充実させてほしい。	A
	勤務状況 ワークライフバランスの推進	時間外業務時間を前年比10%以上削減する。	4: 時間外勤務が10%以上削減された。 3: 時間外勤務が8%以上削減された。 2: 時間外勤務が5%以上削減された。 1: 時間外勤務の削減は5%未満であった。	1	全日制の授業や部活動を兼務する教員が延べ4名に増えたため、昨年度に比べて時間外勤務は増加した。しかし、全体としては時間外業務時間は少ない状態が維持されている。	教員の長時間労働の解消に向けて更なる工夫・改善の努力を続けてほしい。	C

<b>6 学校評価総括（取組の成果と課題）</b>
○ 定時制教育振興会による学校支援が有効に展開されている。また、時間的制約がある中で、各種の地域貢献活動を実施することができた。 ○ 「学び直し」の一環として計画的・組織的に漢字テストを実施するなど、基礎学力の定着と学習意欲の向上が図られている。 ○ 将来の「自立への支援」の一環として、就職・進学とも生徒の希望に沿った進路実現が達成できた。

<b>7 次年度への改善策</b>
○ 地元関係機関との連携を深め、地域からの学校支援が更に受けられるようコミスク活動の在り方について工夫を検討する。 ○ 基礎学力の定着を更に推進するため、漢字テストに加えて組織的・計画的な「学び直し」の取組を充実させる。 ○ 卒業生の進路実現に向け、キャリア教育の充実を通じて早期の進路啓発を図る。